

## 29P-am03

服薬指導のためのがん化学療法施行患者に対するチーム医療の取り組みと評価  
○龍田 涼佑<sup>1</sup>, 川崎 佳奈子<sup>1</sup>, 飯牟礼 里沙<sup>2</sup>, 川崎 愛<sup>2</sup>, 成松 彩<sup>2</sup>, 矢幡 彌奈<sup>2</sup>,  
藤原 美香<sup>2</sup>, 川辺 隆司<sup>2</sup>, 渡邊 浩一郎<sup>3</sup>, 白尾 国昭<sup>3</sup>, 佐藤 雄己<sup>1</sup>, 伊東 弘樹<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>大分大病院薬, <sup>2</sup>大分大病院看, <sup>3</sup>大分大医腫瘍内科学)

【目的】大分大学医学部附属病院腫瘍内科病棟において、がん化学療法を受ける患者に対し、薬剤師が治療スケジュールや副作用症状・発現時期などの説明、医師が治療方針についての説明を行い、看護師が副作用症状のモニタリングやケアを行ってきた。しかしながら、それぞれが個別に患者指導をしており、充分にお互いの指導内容を理解していなかった。そのことは、指導の効率を低下させるだけでなく、患者に齟齬を生じさせることもあった。今回、薬剤師、医師および看護師が個別に行っていた患者指導内容を見直し、医療従事者間共通の指導ツールを作成した。また、薬剤師による服薬指導への汎用性を検証した。

【方法】化学療法レジメンごとに薬剤師が実施していた治療スケジュールや副作用指導文書、医師が提供する治療説明文書並びに看護師が提供するセルフケアハンドブックの見直しを共同で行った。がん化学療法ワークシート第4版を基に、副作用項目を統一し、スケジュールに沿って項目のセルフチェックを行うことが出来るよう一部改変し、これらを一冊にまとめたものを「がん化学療法ハンドブック」とした。同ハンドブックを3ヶ月間使用し、患者説明の際の問題点を医療者からアンケートにより収集する。

【結果および考察】薬剤師だけでなく、医師、看護師も患者指導の統一を重要視していることがわかり、それぞれ部署の協力を得て「がん化学療法ハンドブック」第1版を作成した。これを3ヶ月の使用後、医療従事者並びに患者アンケートを行い、今後、同ハンドブックを改良し、がん化学療法施行患者に対してのチーム医療の質向上を目指し、第2版を作成する予定である。